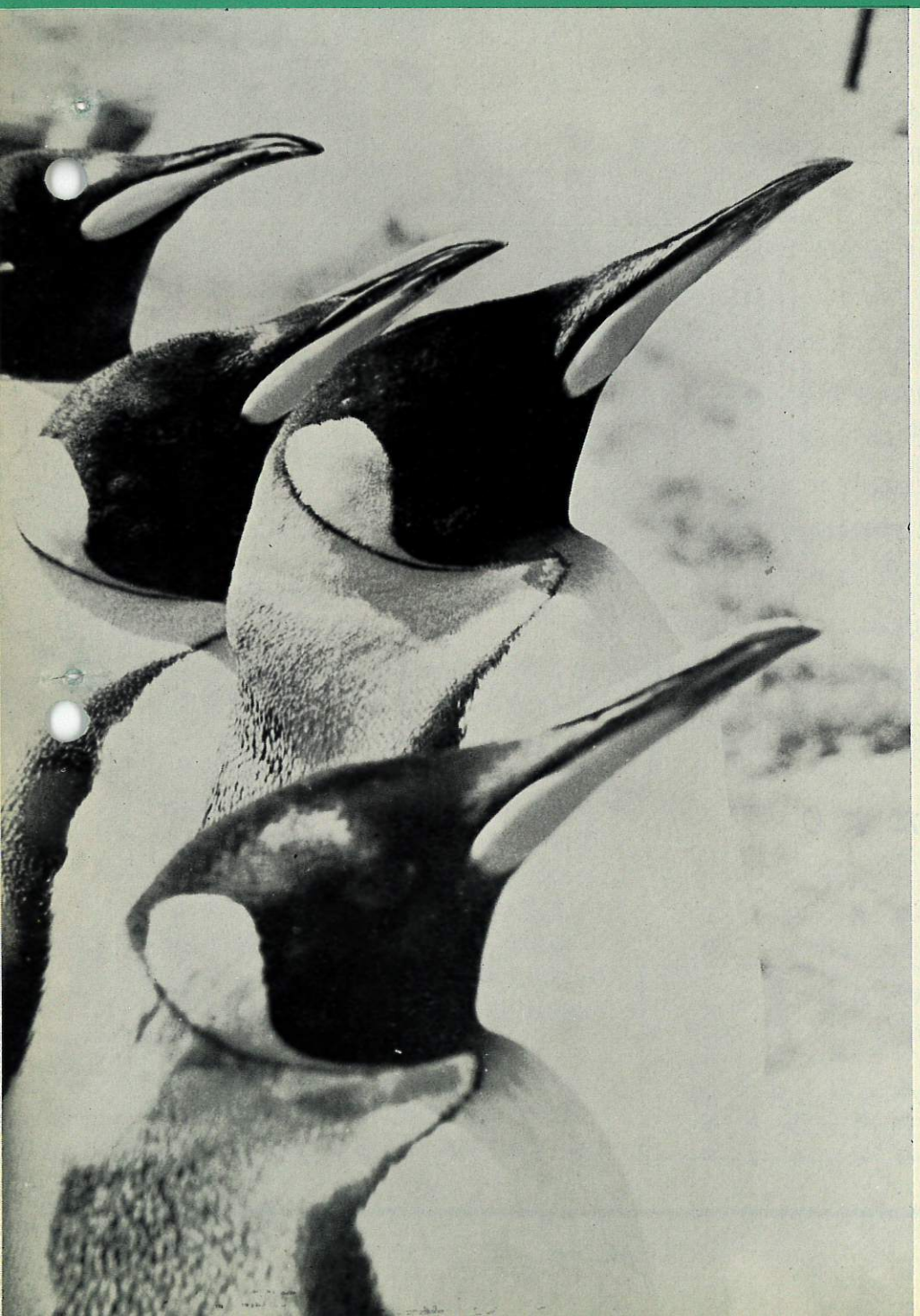


なきごえ



1967

6

大 阪 市
天 王 寺 動 物 園

ごあいさつ

社団法人 大阪市天王寺動物園協会

会長 中馬 富美子

動物園が一般に健全なレクリエーションの場として喜ばれ、又社会教育の施設として果している役割は、非常に大きいものがあると思います。

天王寺動物園は開園以来50有余年市民の皆様と共に歩んでこられました。私たちと同じ屋根の下の大阪の地に住むこれら動物たちが提供してくれる小さなニュースほど私たちの日頃の生活に潤いを与えてくれるものはないと思います。

市内唯一の子供のよき教育の場として、又市民の憩の場として、近年都市の発展と共にその使命の重要性はますます強調せられつゝあります。

このようなときに動物園の後援団体としてさきの任意団体であった天王寺動物園協会が、諸般の事情により発展的解消し、このたび社団法人大阪市天王寺動物園協会が新発足して、その初代会長に就任いたしました。その責務の重大なこと

協会だより

協会役員

理事	中馬	富美子
〃	加藤	一男
〃	寺内	信三
〃	和田	辰巳
〃	松永	恒夫
〃	松谷	幸一
〃	神藤	英太郎
〃	杉原	キクエ

理事	河野	通敬
〃	吉戸	謙三郎
〃	篠原	成美
〃	石田	薫信
〃	吉村	義信
〃	江見	裕吉
〃	佐藤	忠雄
〃	辻	善弘
〃	北	ちよ
監事	上澤	伸价
〃	浅尾	勝



市長夫人

を改めて痛感いたしております。

幸い動物園事業にご経験の深い会員の皆様方や、関係者の方々の絶

大なるご支援を得ておりますので、ご期待にそむかぬよう、会の発展に努力いたしてまいりたいと思っております。

皆様方にもどうか本会の発展のためにご指導ごべんたつ賜わりますようお願い申し上げます、新任のごあいさつといたします。

インド・セイロンに鳥を訪ねて (その2)

上村 淳

十二月八日、インドでの旅程を終えて、セイロンのコロomboに到着、気まゝな独り旅が始まりました。

湿度が高く、日本の盛夏よりも苦しい日中ですが、毎日の通り雨に救われました。

デヒワラ動物園は、インコ類のコレクションが見事で、早朝から通いずめました。飼育係の人、獣医さん達とも親しくなり、飼料の事等雑談しているうちに、動物交換の話にまで発展し、嬉しい約束が出来ました。関係各方面の御協力をいたぐいて、是非実現して見たいと考えています。

セイロンには南海岸と、北西海岸に自然公園があって、鳥獣が大切に保護されています。

もちろん、街路樹にも、庭木にも、又水田にも沢山の鳥をみる事が出来ますし、人々を恐れないのはインドと同様ですが、公園の湖辺には水牛、野牛、鹿、カモシカ、サイ等が集まり、象の群が悠々と採食し、雁、鴨がのんびりと憩い、大小様々の鴨、黒トキ等が群舞する様は、ファンタジーの世界に誘われた様な驚きと、楽しさで一杯でした。公園内は車で通行しなければなりません、そのすぐ前を褐色野鶉が横切り、狐が振り返って見送っておりますし、孔雀が枯れた大木に群れて休息し、トキ、コウノトリもすぐ真近まで来て十分に観察させてくれました。

強烈な光線の下、原色の花が開き、極彩色のサンバードが無数に飛び交う様は、地味な色彩感覚にならされた私にとっては、全く驚異のカラーの

世界です。

島の中央部のキャンデイ高原では、寝苦しさにテラスに出ていますと、大小様々の夜の鳥達が不気味な声をあげてヤシの葉蔭に舞い、遠くに豹の声を聞いて、異様な野生の世界をうかゞい知りました。

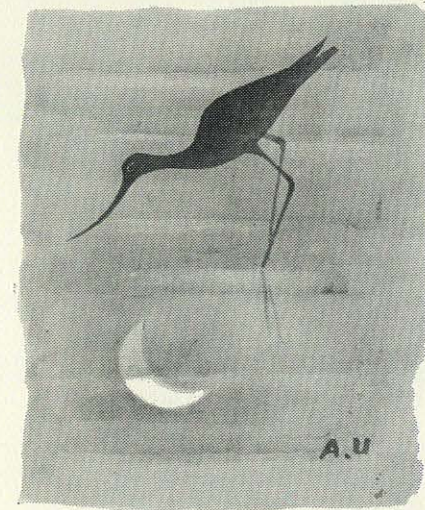
再びカルカッタにもどった私は、昼は動物園に通い、夜はニューマーケットで買い求めた鳥をホテルに持ち帰り、写生する

と云う生活を始めました。そのマーケットには大きい鳥屋があって、ミニベット、頭赤ハナ鳥、コーラウン、インコ、八色鳥等、様々の鳥が無数に並べられています。

小さな檻に、灰色雁、印度雁、黒トキ、青ケイがひしめき合い、印度大鶴、アネハ鶴が物置小屋に押込められていました。そして落鳥が無造作に、而も大量に捨てゝあるのです。

日本へ送るのだという輸送箱には、紅雀がひしめき合い重なり合ってさわがしく鳴いておりました。(完)

<京都市立美術大学講師・日本画家>



熱国月明 村上 淳

表紙の写真説明

キングペンギン いつも端正な姿勢で並んでいます。入園して3年目、すっかり日本の気候になれ、昨年も2羽が産卵しました。

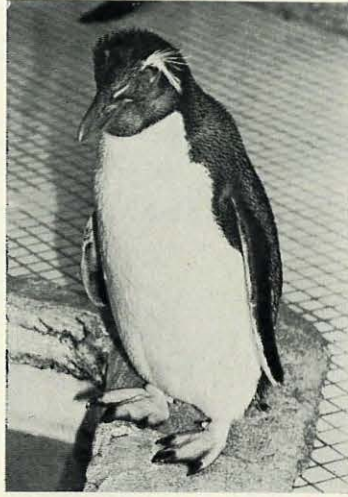
動物園グラフ

南極から赤道直下まで、17種類のペンギンがすんでいます。当園には、現在、6種20羽を収容していますが、その内、寒い地方のペンギンたちは、15°Cの冷房室で夏を過します。異境から来た伊達者たちの元気な姿を集めました。



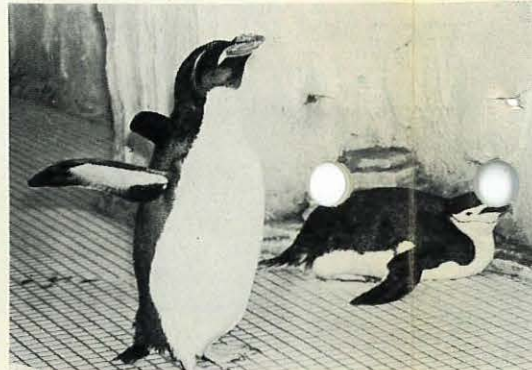
↑ キングペンギン
(おおさまペンギン)

サウスジョージア島附近にすんでいます。帝王ペンギンについて大きなペンギンです。



↑ ロックホッパー
(いわとびペンギン)

今年の4月8日に南極帰りの捕鯨母船にのせられて仲間2羽とはるばるやってきました。

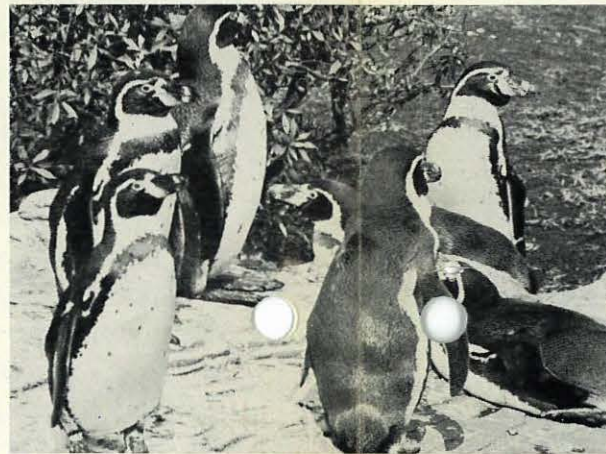


↑ 毎年5月中旬から10月頃までの暑い季節には、冷房室で過ごします。
(左、マカロニペンギン、右、ヒゲペンギン)

ヒゲペンギン

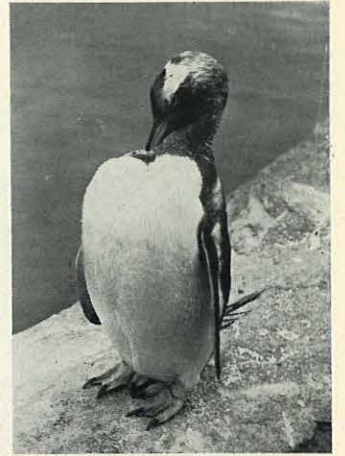
本園における唯一の極地ペンギンです。あごにあるひものような黒いすじが特徴です。(左2枚)

← お食事の時間飼育係のお兄さんから小アジをいただきます。

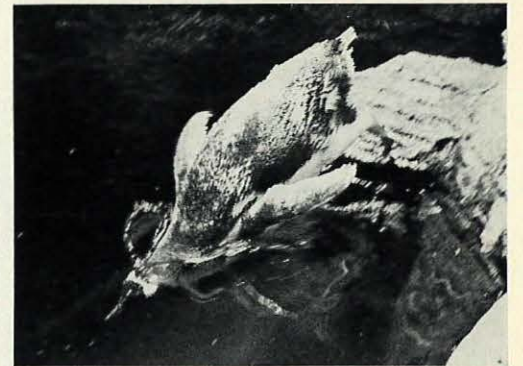


← 冷たいプールで気持ちいい!!
(ロックホッパーペンギン)

ジェンツーペンギン →
(温順ペンギン)
頭の上の白いすじが特徴です。羽根の手入れに余念がありません。



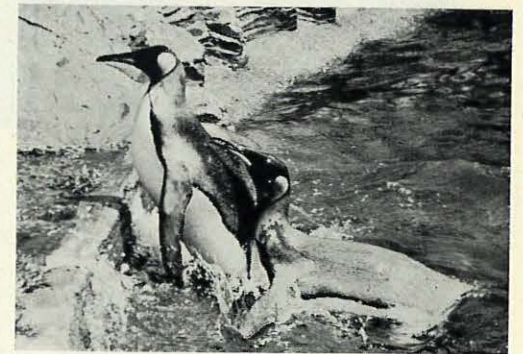
右マカロニペンギン
手前 ロックホッパーペンギン
向側はジェンツーペンギン



暑い日は水浴が一番とばかりプールにとび込みます。

上、プールに飛びこんだジェンツーペンギン

下、ひと泳ぎして上陸するキングペンギン



← フンボルトペンギン

南アメリカのチリー沿岸にすんでいます。動物園でも毎年産卵し、ふ化しています。

4月 動物園日記

- 4月1日 動物園で最長老のエミュ(飼育年数31年)のめすが死にました。福岡動物園と動物の親善交換を行ないました。
- 4月3日 きのはりカンガルーがオーストラリア政府より贈られました。
- 4月4日 ゴリラの赤ちゃん2頭入園。
- 4月5日 カメレオンの寄贈がありました。
- 4月8日 いわとびペンギン2羽が南極帰りの捕鯨船にのせられて入園しました。しゅばしこうが6コ産卵しています。そのうち3コを電気ふ卵器に入れました。

- 4月11日 ライオンの赤ちゃん出産。人工哺乳を始める。
- 4月13日 しまハイエナが老衰のため死亡しました。
- 4月18日 インドくろかもしか2頭が生まれました。
- 4月19日 新設のラクダ、カンガルー舎に動物のおひっこしを行ないました。
- 4月30日 エランドが当園で初めてお産をしましたが、おいしいことに死産でした。

5月 動物園日記

- 5月1日 しゅばしこう2羽自然ふ化しました。春の動物園まつりが始まりました。
- 5月3日 ステージ開きの式典を行ないました。
- 5月4日 しゅばしこう人工ふ化に成功。
- 5月5日 “ぞうの目方を計る会” 市長来園、春子さん3520Kg ゆり子さん2910Kg。いのしし3頭生まれましたが、めす親は難産で死にました。
- 5月7日 バードウィークの催しとして、園内に鳥の巣箱や、鳥の好む実のなる木を植えました。
- 5月10日 バードウィークが始まり、園内で“郷土の鳥”写真

- 展を行ないました。
- 5月14日 身近な野鳥展示会と日本鶏展示会を行ないました。
- 5月19日 きゅんが死産しました。
- 5月20日 快晴が続き気温が急に高くなってきましたので、南極産のペンギンたちを冷房室に入れました。
- 5月25日 キングペンギンが今年も産卵しました。

ペットを訪ねて

東住吉区平野背戸口町195

米田 龍生さん

米田さんは、小さい時から絵が大変好きでした。日本画家を志し、家業を継ぐのを捨てて、毎日、絵筆を握る少年時代を送りました。しかし、太平洋戦争がその夢を砕き、戦後、商業デザイナーとして独立しました。

「デザインを考える時、配色が一番頭を悩ませます。その点、動物たちの色彩からいろいろ教えられる点が多く、同じ動物でも四季折々に変化する羽色から貴重な資料が得られます。」

それに、生き物を飼うという事は何よりの気分転換になりますからネ。

公害、交通戦争、対人関係等々、まことにこの世は住み難い。人々はこの厳しさ、ハン雑さから脱却するために趣味を求め、或は自然を愛して憩を求める様になります。西田さんは鳥を飼う事によって喜びを見出したのです。

10年程前からフクロウに始まり、アカゲラ、ハツカン、キンケイ、ヤマムスメを手掛け、ワニまで飼った事もあるそうです。現在は、クロヅル一番の他、ニジキジ、ショウジョウインコ等が主なペットです。

飼育管理が行届いていて、鳥はみな元気で美しい。目の周囲が、丁度アイシャドーを塗ったようなメスのニジキジには、クレオパトラの愛称があり、米田さんが禽舎に近づくとエサを呉れとねだりに来ます。

「このニジキジも飼い始めて三年目、今年はオスのシーザーとの間にかわいいひなを育てて呉れ



るでしょう。ふ化、育すうが難しいと云われているこの鳥の誕生が今年の楽しみの一つです。」と話されました。

クロヅルの小屋の周りに組まれた割竹の塀は、手製の事でしたが丹念に編まれたその竹垣は、主人の鳥に対する愛情が偲ばれて大変美しいものでした。

パツタン、パツタンと庭の「猪おどし」の音が聞える静かな座敷で鳥の話が尽きません。

「なかなか、馴れない野生の鳥たちでも、心から可愛がって飼うと、

きつとなつくものです。その点、人間社会は反逆が多過ぎると思います。

鳥に対する愛情と同じ様な気持ちでお互が接することが出来たなら世の中はモット、モット明るく暮し良くなると思います。それで皆の人に鳥を飼う事を奨めているのです。」

手広く、広告宣伝業を営む米田さんは、たくさん動物たちを集めて動物の楽園をつくるのが一つの夢とのことでした。(中川道朗)

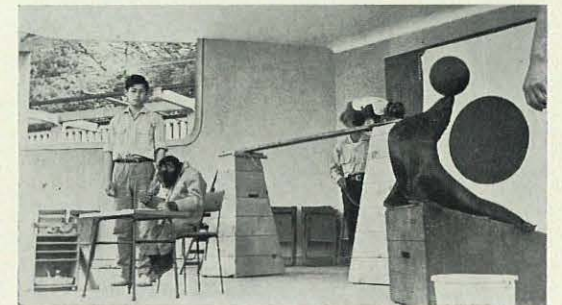
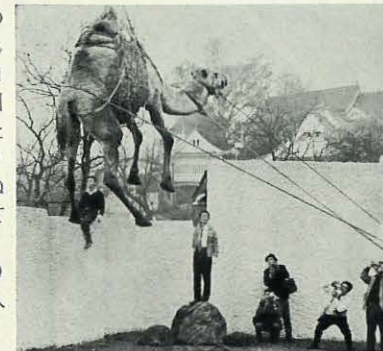
なきごえ 6月号 もくじ

インド・セイロンに鳥を訪ねて.....	3
動物園グラフ.....	4.5
ペットを訪ねて.....	6
動物園ニュース.....	7

動物園ニュース

ラクダのお引越し

新しいラクダの放飼場ができましたので、4月19日ラクダ2頭のお引越しを行いました。お年寄りの白いラクダはダダをこねてなかなか歩いてくれないので、クレーン車につり上げてのおこし入れとなりました。



トリオアニマルズの初舞台

春の動物園まつりを目標に訓練を続けていたチンパンジー、あしか、たぬきのトリオは5月3日の「ステージ開き」の日に初舞台をふみました。この日は憲法記念日とあってたくさんのおよびのみなさんが熱心な芸にさかんな拍手をおくっていました。

人工哺乳で育てられたライオンといのししの赤ちゃん

4月11日にライオンの赤ちゃんが3頭生まれました。しかし3頭のうちただ1頭のめすは、お母さんライオンがお乳をやらずにほったらかしにしていたのですぐ死んでしまいました。残った2頭の赤ちゃんも弱っていましたので、すぐ哺育器に入れて、特殊な動物用のミルクで育てました。(写真1)



5月5日 いのししの赤ちゃんが3頭生まれました。しかし、お母さんは難産だったのかすぐに死んでしまったのです。早速哺育器に入れられてミルクで育てられましたが、(写真2)2頭は惜しくも2~3日後に死にました。しかしたった1頭残ったおすのいのししはとても元気で、今ではすっかりライオンとなかよしになってしまいました。(写真3)



しゅばしこうの人工ふ化育雛

しゅばしこうは今年も6コの卵を産みました。今年新しい試みとしてその半数を人工ふ化することにしました。4月8日に電気ふ化器に入れて5月4日に1羽がふ化しました。他の2コは無精卵と中止卵でした。えさはドジョウのミンチにドッグフード少量を混ぜ与えています。なお、親が巣で温めていた卵はみんなふ化しましたが、うち1羽は1週間ぐらいに死にました。他の2羽は非常に元気で育っています。



社団法人 大阪市天王寺動物園協会発足

動物園の後援団体である社団法人大阪市天王寺動物園協会は、中馬市長夫人を会長に迎え、去る5月24日第1回の総会が開かれ、動物園が更に活動できるためのいろいろな事業計画が協議せられました。この会の活躍に御期待下さい。

なきごえ 昭和42年6月15日発行（毎月1回15日発行）第3巻第5号（通巻25号）

編集人／和田辰巳 発行所／社団法人大阪市天王寺動物園協会 大阪市天王寺区玉水町2
電話 大阪 771-8401

定価 40円

